

ルイ・ヴィトン BRUTUS SELECTION

BRUTUS

2002 8.15 特別定価 550円

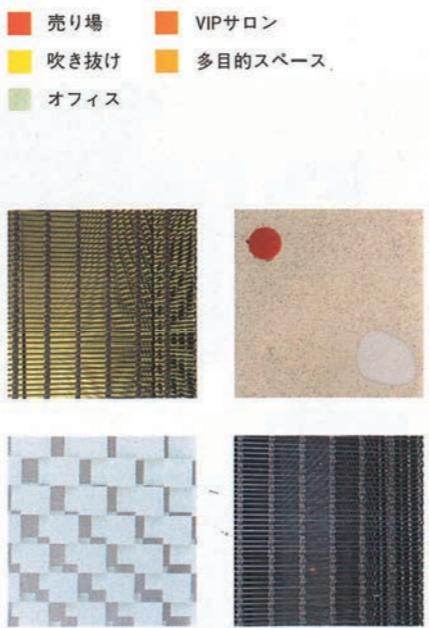
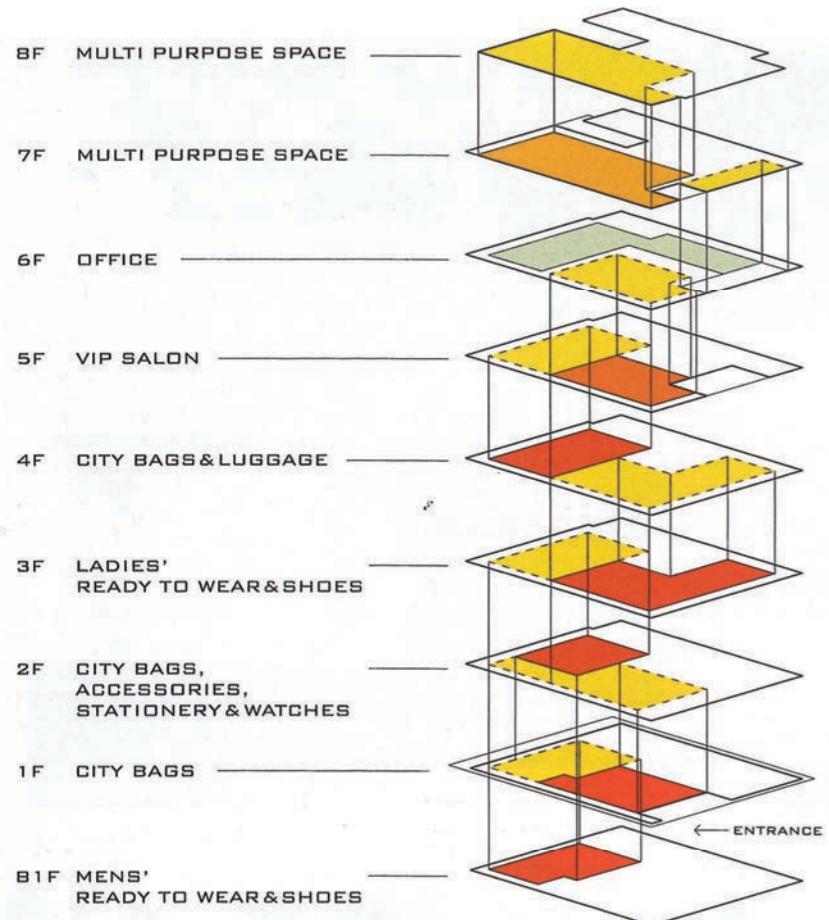
ルイ・ヴィトンの謎?

噂のVIP サロンって、どんなところなんですか？



9月1日にオープンする表参道店
の目玉のひとつが、5階のVIPサ
ロン。なんでも、素晴らしい眺望
のテラスがあり、バトラーもいる
そうな。もしかすると一生足を踏
み入れられないところだけに、い
たく気になります。ひと足お先に
覗かせてもらいました。

内装はルイ・ヴィトン マ
ルティエ社アーキテクチャ
ー・デパートメントのディ
レクター、エリック・カ
ールソン氏。テーマカラーは
他のフロアとは一軒して赤。
階下を通らずに入れるアブ
ローチも考えられている。
世界に先駆けての、VIP空
間。いったいどんな人々が、
こここのユーザーとなるのか。



実際は地上8階、地下2階のフロア構成。各フロアに置かれるアイテムが異なり、それぞれがひとつのトランク型の空間になっている。ランダムに積み重ねたトランクは入れ子状に重なり、ある部分では外部空間とつながって表参道のケヤキ並木を覗かせる。エレベーターではなく、階段で空間の展開を楽しみたい。



ERIC CARLSON
1963年アメリカ生まれ。レム・コールハースとの仕事を経て、97年にルイ・ヴィトンマルティエ社アーキテクチャー・デパートメント設立。昨年リニューアルした丸井今井札幌店の設計も担当。



JUN AOKI
1956年横浜市生まれ。東京大学工学部建築科卒業。磯崎新アトリエを経て、91年青木淳建築計画事務所を設立。遊水館でJCDデザイン賞'97奨励賞を、渋博物館で'99年度日本建築学会賞を受賞。

トランクを積み重ね、ビルを作るのは、建築家の青木淳氏。「表参道は、有数の商業エリアでありながら、ケヤキ並木があり、古い同潤会アパートがあって、生活の匂いも混在する、特有の風景を持ついます。そこに位置する建物は、そうしたスケール感に合わせたほうがよい。そのためには空間を分節して、柔らかなテクスチャーで包むのがふさわしいと考え、トランクを積むという発想が生まれました」

柔らかく外を包む素材はメタルメッシュ。その内側にはステンレスパネルを張るダブルスキン構造。パネルで箱を作りメッシュで包み込む、トランクの作り方と同じ手法だ。メッシュは3つの異なる編み方を特注し、メタルは2色を用意。各トランクごとに組み合わせを変え、個々の空間の分節を強調。同時に光の具合でメッシュとメタルの間に生じるモワレが不思議な表情を与える。

メンズアイテム・バッグ、レディースアイテム……、それぞれの売り

場がひとつつのトランク型の空間。それらがランダムに積み重ねられ、ビルが形作られていく。結果、各フロアが入れ子状に重なり合う。

アは、入れ子状に重なり合う。「穴から穴へと、ふいに世界が切り替わる不思議の国のアリスの物語のような空間構成にしたかった」

そんな青木氏の遊び心に満ちたプロアプランは、斬新な内装でより明確さを増す。手がけるのは、ルイ・ヴィトンの建築部門アーキテクチャードパートメントのディレクターであるエリック・カールソン氏。

「内側もトランクのよう柔らかなテクスチャーで包もうと考えました。さまざまな素材が候補に挙がりましたが、外観のイメージと重なるよう、塗装したメッシュを選択しました」

メッシュの色はホワイトが基本。上階に位置するVIPサロンなどは、異なるカラーで差別化される。

子状に上下階のフロアが重なる境界は、上下から伸びるメッシュが重なり、外と同じくモワレ効果を派生させる。と同時に、メッシュを通して別のフロアが覗け、不思議の国

アリス的空間構成が、一層際立つ仕組みに。インテリアもエリアごとに変えて、移動するたびに、異空間に紛れ込む感覚だ。

モードと建築の幸福な出会い。表参道の新しいビルそしてショップは、

ルイ・ヴィトンをシンボライズする。

